

16 主婦の座に関する研究（第1報）

主婦権の実態とその内容

東京都立戸山高校 和田 典子

1 目的及方法

家庭における主婦の社会心理的緊張の実態を調べると共に、主婦の座の民主化にはたらく有意の要因を知り、あわせて家庭生活の進歩方向を考究しようとした。

方法は、大都市，中小都市，農漁村地域の主婦 1892名を対象とし，A一般条件，B生育条件，C個人条件，D主婦権，E夫婦関係，F母子関係，G嫁姑関係，計88項目に関する質問紙を配布し集計し，その結果について更に比較法処理を行って要因分析を試みた。

2 主婦権の実態と内容

主婦権を家計，家事，生活様式，家族の支配権とみて14項目に12点満点を配し実態をみると全国では $M=5.71$ ， $S \cdot D=2.86$ で，地域別では大都市 $M=6.88$ ， $S \cdot D=7.73$ 。中小都市 $M=5.78$ ， $S \cdot D=3.91$ 。農村 $M=4.77$ ， $S \cdot D=2.95$ 。漁村 $M=4.87$ ， $S \cdot D=2.05$ であった。一般に主婦権確立の程度は未だ半ばに過ぎず，家庭生活が近代化するにつれて主婦の座も安定していることが判った。

又，その内容として有意な弁別の要因は，(1)家計委任の程度，(2)余暇の自由度，(3)生活様式決定への参加程度，(4)子女の教育支配権等であり，衣類管理については都市，農村の様式差が明瞭にみられた。

尚，本研究はグループ代表者牛島義友氏の指導を受けた。